

平成23事業年度決算の概要について

国立大学法人山梨大学の平成23事業年度財務諸表等の決算関係資料が、文部科学大臣より承認されましたので、大学の財政状態や運営状況を広く知っていただくため、ここに公表いたします。

わが国は現在、世界的に深刻な不況、並びに昨年の東日本大震災等がもたらした極めて困難な事態に直面しています。このような中で、国立大学である本学は、教育、研究、社会貢献機関としての本来の使命を果たすことによって、わが国が持続的に繁栄できるよう、強力に支援する責務を負っています。この責務を速やかに果たすためには、本学の教育研究機能を一層強化することが必要です。

平成23年度は、第2期中期目標期間の2年目であり、中期目標の達成に向けて年度計画を実施しました。「地域の中核を担う人材、世界に通用する人材」の養成を通し、社会の発展に寄与することを目標に掲げている本学では、特に、教育研究組織の見直しに重点的に取り組み、1) 教員育成機能の充実と、生涯学習を担う教育人材養成システム構築のための教育人間科学部の改組、2) グローバル化社会を見据えた世界的に活躍できるエンジニアの育成と産学官連携によるイノベーション（技術革新）を目指した工学部の改組、3) 21世紀の重要課題である生命・食・環境・経営に関して広い視野を持ち、地球規模の食料、環境問題の解決に貢献できる専門職業人を、文理融合の実践的教育で育成する生命環境学部の新設、並びに4) 山梨県の先進医療を担うための医学部附属病院の再整備に向けた所要の準備を進め、平成24年度の両学部改組、新学部設置、並びに医学部附属病院の再整備着工を実現しました。

本学も他の国立大学法人と同様に、運営費交付金の削減等、年々厳しい経営環境に置かれている状況ではありますが、教育、研究、社会貢献機能の強化による外部資金の獲得額増加や管理的経費の抑制、附属病院の増収策を施す等継続した取り組みにより、安定した財務状況を保つことができいております。

平成23事業年度財務諸表は別紙のとおりですが、これらは前年同様に貸借対照表、損益計算書等企业会計に準じた国立大学法人会計基準によって作成しています。その概要は、平成24年3月末の資産合計は約628億2千万円、負債合計は約209億円、純資産合計は約419億2千万円となっており、また、平成23年度経常収益合計は約309億4千万円、経常費用合計は約298億1千万円、当期総利益は約11億2千万円となっています。

しかし、この当期総利益の要因は、国から承継された機器の減価償却相当額が耐用年数

の期間中は継続して利益となること、及び病院施設整備のための借入金償還額とその減価償却費の差が利益となること等、会計ルールの変更や法人への移行に伴う特例的な会計処理によるもので、これらを除いた現金の裏付けのある実質的な剰余金は約 7 千万円です。この剰余金は、目的積立金として繰り越し、教育・研究・診療の質のさらなる向上や組織運営改善のために大切に使用していく予定です。

これら財務状況に関しては、様々な視点から検証し、財務報告書（23 事業年度フィナンシャルレポート）も作成し、広く公表いたします。

本学は今後も中期目標・中期計画の達成に向け、厳しい財政状況の中で、外部資金の獲得等自己収入の確保を図りながら、一層の経費節減や事業の見直し・効率化等を継続して進め、教育研究活動の一層の充実・発展に努めるとともに、その成果を活かした社会貢献を進めてまいります。

公表にあたり、ご支援いただいた関係各機関や地域の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、本学が今後も「地域の中核を担う人材、世界に通用する人材」の養成を通し、社会の発展に寄与することができますよう、引続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成 24 年 10 月 11 日

国立大学法人山梨大学 学長 前 田 秀一郎